

トピックス 日本原子力技術協会によるピアレビューが実施されました

当発電所において、日本原子力技術協会[※]によるピアレビューが5月17日から28日まで実施されました。

ピアレビューとは、原子力の専門家で構成したチームが事業所を訪問し、率直な意見を述べ合い、良い点は良好事例として他の事業所でも活用できるよう広く知らせ、また改善した方がよいと指摘された点は発電所の安全性と信頼性を向上させることに役立てる技術者交流です。

今回のピアレビューで当発電所では「運転員の『操作前の1分間ドリル』によるセルフチェック」など3件が良好事例とされ、「仮置き物品等に対する管理の向上」など10件について改善提言を受けました。

当発電所はこの結果を受け、より一層発電所の安全性・信頼性を高めるよう努力してまいります。



▲ピアレビュー開始会議の様子

※日本原子力技術協会は、技術基盤の整備、自主保安活動の促進を行い、原子力産業の活性化に貢献することにより、会員共通の利益を図る目的で平成17年4月に事業を開始しています。
なお、電力会社、プラントメーカー、研究機関など122法人が同協会の会員となっています。
(平成21年10月13日現在)

【発電所の運転状況（5月末現在）】

号機	運転状況	主な動き
1号機	定期検査中	第19回定期検査を実施しています
2号機	運転中	順調に運転しています
3号機	運転中	順調に運転しています

トピックス 原子力エネルギー安全月間講演会を開催しました

5月18日に、独立行政法人原子力安全基盤機構元理事の熊澤昭雄氏を講師にお迎えして講演会を開催し、発電所職員や構内協力企業の社員など、合わせて約100名が聴講しました。

本講演会では「経験むかし話」というテーマのもと、講師が多くの工場などを調査した経験から、良い会社は社員が礼儀正しく、建物や構内が清潔で整理整頓が行き届いているなどの共通した特徴があることや、第二次世界大戦中の不沈の駆逐艦「雪風」を例にチームワークの大切さ、管理職の心構え等についてお話をいただきました。

※毎年5月は、原子力事業者における安全文化の浸透・定着を通じ、原子力安全確保に対する意識高揚を目的として、「原子力エネルギー安全月間」に定められています。



▲経験豊かな講師のお話により、参加者は興味深く聞き入っていました

お知らせ 女川原子力PRセンターにて「ローズガーデンフェア」を開催しています

女川原子力PRセンターでは、6月1日から30日まで、「ローズガーデンフェア」を開催しています。

また、フェア期間中の土日には、「ミニバラ寄せ植え教室」や「モザイクタイル教室」も開催いたします。（事前のお申込みが必要です。）

ぜひ皆さまお誘いあわせの上、お越しください。



▲しあわせのバラのトンネル（昨年6月撮影）

（お申込み・お問い合わせ）女川原子力PRセンター
電話 0225-53-3410
開館時間 9:30~16:30
休館日 毎月第3月曜日（祝日の場合翌日）年末年始

ふれあい

女川原子力PRセンターでスプリングフェスティバルを開催しました

5月1日から5日まで、女川原子力PRセンターで、毎年恒例のスプリングフェスティバルを開催しました。

1日は「天装戦隊ゴセイジャーショー」、2日は銀鮭つかみどりを行ったほか、段ボール工作教室やこども縁日、お楽しみ抽選会などを行い、ご来館された皆さまにお楽しみいただきました。



▲子供たちは、勢い良く泳ぐ銀鮭を一生懸命追いかけていました

ふれあい

女川町野々浜地区から石巻市小積地区までの区間で道路清掃を行いました

5月10日に、女川町野々浜行政区主催の道路清掃活動が行われました。

当発電所からは新入社員を含む計39名が地域への日頃の感謝をこめて清掃活動に参加し、野々浜行政区の皆さまや東北特殊工業(株)の社員の皆さまと一緒に、女川町野々浜地区から石巻市小積地区までの区間で、道路沿いに落ちている空き缶・ペットボトルやゴミを拾い、環境美化に努めました。



▲道路脇の空き缶やゴミを熱心に拾い集めました。当日回収したゴミの量は約630kgにもなりました

* 高レベル放射性廃棄物の処理について (2) *

原子力発電所で使い終わった燃料から、再利用できるウランやプルトニウムを回収すると、核分裂生成物を含む放射能レベルの高い廃液が残ります。

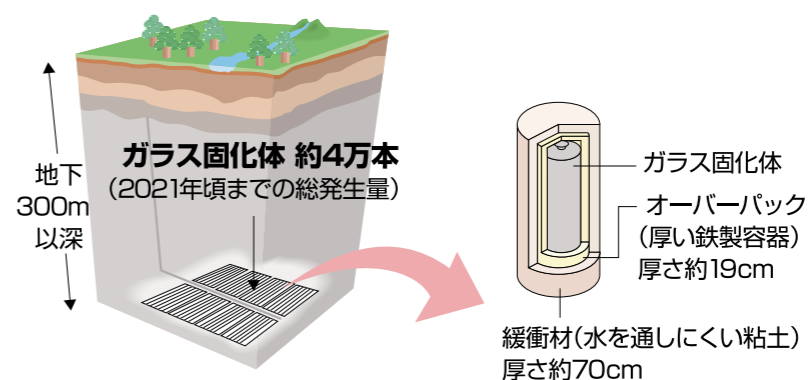
この廃液とガラス原料を融かし合わせて固めた「ガラス固化体」(高レベル放射性廃棄物)^{*}は30~50年間冷却した後、300mより深い地下に「地層処分」します。「天然バリア」である地層と人工的なバリア「人工バリア」を組み合わせた「多重バリアシステム」により、数万年以上にわたって放射性物質を私たちの生活環境から隔離することができます。

日本では2002年12月に、地層処分の設置可能性を調査する区域の公募が始まり、また地層処分に向けての理解活動が進められています。

^{*}ガラス固化体は廃液とガラスを混ぜて融かし固めたもので、色ガラスの色の成分のように、放射性物質はガラスと一体化しているため、ガラスが割れても廃液が出てくることはありません。



高レベル放射性廃棄物の地層処分



【天然バリア】

- 火山や断層活動の影響を考慮し、安定した地層を選ぶ。
- 地下300mより深い地層を選ぶ。(酸素が少ないため金属が錆びにくく、地下水の動きも非常に遅い。)

【人工バリアの例】

- ガラス固化体を厚い鉄製容器(オーバーパック)に入れ、さらに水を通しにくい粘土で覆って埋設する。

出典：原子力2010(コンセンサス)(電気事業連合会)